

会 議 錄

会議の名称	令和7年度第1回戸田市上下水道事業経営審議会
開催日時	令和7年9月4日(木) 午後2時～午後4時6分
開催場所	新曽南庁舎 4階 会議室
会長氏名	石井 晴夫
出席者名(委員)	石井会長、宮田副会長、田中委員、古井委員、石田委員、大貝委員、芳賀委員、
欠席者名(委員)	富岡委員、畠委員、前野委員
傍聴人	なし
事務局	水安全部長 五條 宏 水安全部次長兼総務課長 東口 俊博 水安全部次長兼水道施設課長 山老 英巳 下水道施設課長 寺尾 亮 他職員5名
議題	案件1 「水道ビジョン及び下水道ビジョン(令和6年度分)評価について」 案件2 「令和6年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果について」 案件3 「令和6年度戸田市上下水道事業決算について」 案件4 「戸田市上下水道ビジョン等策定業務の進捗について」
会議結果	案件1 「水道ビジョン及び下水道ビジョン(令和6年度分)評価について」 施策評価について、事務局案を承認。 案件2 「令和6年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果について」 令和6年度上下水道事業包括委託モニタリング結果について報告。 案件3 「令和6年度戸田市上下水道事業決算について」 令和6年度戸田市上下水道事業決算について報告。 案件4 「戸田市上下水道ビジョン等策定業務の進捗について」 戸田市上下水道ビジョン等策定業務の進捗について報告。
会議の経過	別紙のとおり
会議資料	別紙のとおり

発言者	内容
事務局	<p>【開会】</p> <p>【水安全部長挨拶】</p> <p>【新委員紹介】</p> <p>【事務局紹介】</p> <p>【会長挨拶】</p> <p>【資料確認】</p> <p>【委員出欠状況報告】</p> <p>委員総数10名のうち、半数以上の7名が出席したため、戸田市上下水道事業経営審議会条例第5条第2項の規定により会議成立。</p> <p>【議事】</p> <p>議長 案件1 水道ビジョン及び下水道ビジョン（令和6年度分）評価について、事務局より説明願いたい。</p> <p>事務局 【「令和6年度水道ビジョンの評価」について説明】 【「令和6年度下水道ビジョンの評価」について説明】</p> <p>議長 上下水道ビジョンについて、事務局から説明していただいたところであるが、これまでの説明について何か意見・質問等があったらお願いしたい。</p> <p>委員 資料1-2 水道ビジョンの2(4)③の口径200mm以上の耐震化率の未達の理由とその対策はあるのか。また、資料1-3 下水道ビジョンの2(9)③の耐水化の実施の目標値が80%になっているが、工事未完了ということは到達度0%という理解でよいか。</p>

事務局	水道の基幹管路については、浄水場間を結ぶ送水管の更新にまだ着手ができていないため、未達となっている。下水道の耐震化の実施については、耐震化の計画自体が令和 4 年度から 8 年度までの 5 か年計画の中で、ビジョンが 7 年度までの計画であるため、各年 20%ずつに振り分け目標値を 80%に設定した。令和 6 年度については、工事が実施できなかつたため 0%となつた。
委員	確か 2 回前の会議の時にも指摘したが、水道ビジョンと下水道ビジョンで表記されている評価内容や指標が異なつてゐるが、なぜ統一しないのか。
事務局	<p>水道ビジョンと下水道ビジョンで評価が分かれていることについては、元々、水道事業は公営企業として運営し、下水道事業は長らく市が直轄事業として行つてきた経緯に起因する。戸田市は平成 26 年度から公営企業法の規定の全部を適用し下水道事業も公営企業に移転し、上下水道事業へと変遷をたどつた。加えて令和 3 年度から河川事業も含めて水安全部として体制を整備した。これまで、ビジョンをそれぞれ個別に作成してゐたため、両者の連携が図られていなかつた部分がある。しかし、これらの点は改善すべき点として認識してゐたので、令和 8 年度から施行されるビジョンについては上下水道を統一して運用を行う。来年度、即ち令和 7 年度の評価までは評価指標等を統一できないが、令和 8 年度の評価からは可能な限り評価指標等を統一し見やすくなるように努める。</p> <p>また、下水道管の老朽化についてはこれまであまり課題になつてゐなかつたが、今後は八潮市での事故もあり、一気にクローズアップされているので、工事と老朽化については特化していくことになる。</p>
委員	資料 1-2 水道ビジョンの 2 (4) の耐震化率は、令和 5 年度と比較して伸び率はどのくらいなのか。
事務局	耐震化率の令和 5 年度の数値は①が 53.2%、②が 61.0%、③が 66.0%である。令和 6 年の数値は①が 53.4%、伸び率は 0.2%、②が 61.7%、伸び率 0.7%、③が 66.7%、伸び率 0.7%である。

議長	伸び率 0.7%という数値はどのような水準であるのか。
委員	平均値よりは高い数値に相当するのではないかと思う。しかし、特に 300mm、200mm という大口径に関しては影響が大きいことから、もう少し 更新のペースを早められると良いという印象を受けた。
委員	資料 1-2 水道ビジョンの 3 (3) ③の料金回収率の実績値は 91%であるが、今年の 4 月に料金改定を行い半年以上経過している。このことについて、市民の反応や、収入見込みに対する実際の収入額の推移等についてはどうか。
事務局	市民の反応については、「料金が高い」という苦情が多く寄せられているような状況ではない。今回の戸田市の料金改定はマスコミにも多く取り上げられ、その時の街頭インタビューでは、「確かに生活は苦しいが、八潮での事故もあったので施設の老朽化への対応資金として使うのであれば仕方ない」という内容のコメントが多かった。29 年ぶりの料金改定であったことから、広報活動も重点的に実施してきたこともあり、批判的な大きな意見は届いていない状況である。
委員	戸田市の水道料金改定のホームページを見て、きめ細かく広報されて、且つ多言語での説明もあり、非常に丁寧なページだと思った。
委員	資料 1-2 水道ビジョンの 3 (3) ③の「健全な経営と事業運営の維持」の料金回収率で、計画値が 92.1%に対し実績値 91.1%とある。今回、水道料金の値上げがあり、実際に回収が始まった段階ではあるが、現況及び今後の計画等について伺う。
事務局	料金徴収についてはシミュレーションどおり概ね進んでおり、7 年度決算の料金回収率は 100%を達成する予定である。審議会からは改定率を 61.20%で行うべきという答申をいただいたが、実際の改定率はその半分の 33%である。この差分の資産維持費を料金に組み込んで徴収すべき、という国の方針ではあるが、61.20%では非常に厳しい数字であることから、今回は市と

	<p>しても 61.20%は見送り、料金回収率 100%を達成するための 33%を採用した。これまで 28 年間料金を据え置いてきた赤字経営の補填財源は、本来、施設の更新に回すべきものであったが、それを赤字経営の補填に当て続けてきた。加えて、今回も資産維持費の計上を見送っているため、料金改定はあくまで給水事業の赤字解消のみの対応となっている。今後は施設の運営や維持管理を図るためにどのような料金改定が必要なのかが課題である。このあとの決算説明において、施設の状況を述べるが、経営状況はかなり悪い状況である。</p>
委員	<p>街頭インタビューでの話のように、水道料金は今まで安かったから仕方ないという市民感覚はある。一方、資料 1-3 下水道ビジョンの 7 (22) ②の出前講座の実施が無いため評価 C であるが、住民からの依頼が無かつたことから総合評価としては A という説明があったが、行政はもう少し積極的に実施していくことが求められているのではないかと感じた。</p>
議長	<p>委員の指摘は大変重要なところなので、今後の対応としてそのような観点からもしっかりと準備していただきたい。</p>
委員	<p>水道料金は値上げ理由というより、周りの市町村と比べてどれだけ高くなってしまったのかという部分で比較する可能性が高いと思うが、全国平均や県内平均と比較した場合はどのくらいに相当するのか。</p>
事務局	<p>戸田市の上下水道料金は非常に低い状況にあった。改定前料金の全国比較では、約 1700 自治体のうち、下から 10~20 番に位置するほどであった。埼玉県南部（戸田、蕨、川口、さいたま市、朝霞、和光、志木、新座、上尾、北本）の 10 事業体の中でも、上下水道を合算すると、戸田市が一番低く、水道だけで比較しても和光市の次に低い。今回の料金改定により、全県及び県内の平均値とほぼ同等になった。周辺自治体では川口市が非常に健全な経営を行っており、川口市やさいたま市は料金が高くなっている。これは自治体規模が大きいため、ある程度市の行政と分離し、事業経営の判断ができるにも起因している。戸田市も 14 万人居住しているが、住民との距離が近いため、値上げの判断が難しいところである。そのため戸田市は料金回収</p>

	率 100%達成を目指しているが、さいたま市や川口市は 120%を達成している。これは 20%の資産維持費を計上し、料金設定を行っているということである。料金回収率は供給単価と給水原価の占める割合であるため、100%でちょうど釣り合う。それは給水事業を運営するために釣り合っているということであり、先ほど説明したとおり将来の資産維持費は含んでいないが、方向性としては徐々に適正化に進んでいる。
委員	関連する質問となるが、他市と比較することも理解できるが、他市とは人口比率や土地の広さ、道路、管路の整備状況等も異なることから全く同じ料金の算定グループになるとは思えない。つまり、戸田市では上下水道事業を運営するのに最低限かかる費用よりも料金設定が低かったから赤字運営になってしまったという理解でよいか。
事務局	戸田市の市域は非常に狭く、住宅が密集しているため事業としては非常に効率が良いことは間違いない。水道を 1 本引けば 2~3 軒の家が接続し料金を負担いただけるが、過疎地では 1km 引いて 1、2 軒ということもあり得るため当然非効率である。そのため県南地区では基本的な状況は同様である。戸田市の人囗 14 万人が東西南北 4~7km ほどに密集しているため、効率が図れると思う。一方、スケールで見ると、首都圏で 14 万人というのは少ないが、地方に行けば県内でも 2 番目位の市の水準と言えるので、非常に効率が良いと言える。あとは費用対効果であるが、事業体の規模が大きければ調達コスト等が有利に働くが、戸田市はコンパクトさも有利に働いているということは間違いない。また、上下水道は基本的に県の施設を活用している。戸田市の場合、水道水の 8 割を県から購入しているが、県水はどの事業体にも同一価格で販売しているため、これに関してはみな平等である。あとはいかに効率的に配水できるかということになるが、戸田市は人口が増え続けてきたため、料金を引上げずとも破綻せずに 30 年運営することができた。
委員	例えばマンションが多く建ち並ぶ方が効率的には良いと思うがどうか。
事務局	マンションの建設が増えると、分担金及び加入金の収入も増え、赤字部分の補填としてそれを利益の一部として計上してきた。しかも県水も 20 年以

	上値上げをしておらず、給水戸数の増加により見かけ上は黒字に見えるため、100%を下回る料金回収率の恒常化に繋がってきた。しかし、戸数の増加が落ち着き、施設の老朽化が進むにつれ、内部留保資金が増えていないことを国から指摘され、料金改定を定期的に行っていくという本来の姿になつていった。戸田市だけでなく周辺事業体でそのような動きになり、料金の値上げを行う自治体が増えてきている。
委員	上水道の安全で安心して飲める水道に関連するが、給水管が鉛管の場合、健康被害の問題が挙げられるが、戸田市の状況はどうなっているのか。
事務局	戸田市の場合、鉛管、給水管についてはゼロである。
議長	それでは、令和6年度上下水道ビジョンの評価については、資料1の事務局案を公表することとしてよろしいか。
委員	【異議なし】
議長	続いて、案件2 令和6年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果について、事務局より説明願いたい。
事務局	【令和6年度上下水道事業包括委託モニタリング評価結果についての説明】
議長	順調に業務の方は推移しているという説明であった。戸田市の包括委託業務は、全国のモデルケースになり、戸田市の事例を受けてこの方式が全国に波及していく。総務大臣表彰を授賞され、そういう意味でも取り組みが非常に注目されている。引き続き、業務を遂行していただきたい。それでは、案件2は以上でよろしいか。
委員	【異議なし】
議長	続いて、案件3 令和6年度戸田市上下水道事業決算について、事務局から説明願いたい。

事務局	【令和6年度上下水道事業決算についての説明】
議長	<p>ただいま、上下水道事業会計決算の説明が終わった。</p> <p>説明について、何か意見・質問等があったら、お願いしたい。</p>
委員	<p>水道の資本的収支の不足額について、収益的収支の中に減価償却費とあるが、キャッシュフロー的にどの辺りで収支がとれているものなのか。同様に、下水道についてもどうか。</p>
事務局	<p>通常、資本的収支の不足額は内部留保資金で対応するのだが、今回賄えきれなかったので、建設改良積立金の取り崩しで賄った。当然、キャッシュフローは保っている。水道事業会計と下水道事業会計の違いは、補助金負担割合の部分で、雨水貯留管建設工事が特に大きく影響している。</p>
委員	<p>下水道事業会計の特定収入に係るその他雑支出の減少という箇所について、確認したい。</p>
事務局	<p>単年度ではなく、長期前受金の圧縮記帳により 30 年で少しづつ減らしていくという会計上の処理である。税負担は、単年度でみると減っているが、トータルでみれば変わらない。あくまで、特定収入の 5% を超えた部分の費用を、今まで単年度で雑支出として計上して支払いをしてきたが、それを今回、長期前受金の方から減らすということである。年度ごとになるので、7 年度の工事分はこれからとなる。</p>
委員	<p>企業債について、今後どのように金利の上昇を見込んで予算を積算しているのかを確認したい。</p>
事務局	<p>今後の見込みであるが、金利の低い公的資金は 2.3%、2.4% であるが、こちらは非常に借りられないような状況である。縁故債については、4% となっている。公的資金は絞られてきているので、今後、起債借り入れ方法については検証していく必要がある。期間については、建物の耐用年数があるの</p>

	で、10年・15年・30年が多い。これまでの金利は、水道では令和6年度で公的資金（地方公共団体金融機構）で2.1%、縁故債で1.348%である。借りている明細が異なるので、一概に同じ金利ではないが、2.1%が30年、1.348%は10年である。基本的に金額の大きいもの、期間の長いものは公的資金（地方公共団体金融機構や財政融資資金）から借りている。現状では2.1%が6年度の実績だが、7年度は既に2.4%くらいまで上昇している。平成30年で0.2%、平成の始めは4.65%であった。
委員	30年債ではなく10年債で起債する、という手法で借りていく団体が結構多いのではないか。
事務局	その通りである。公的資金で30年は借りられないので、刻んで縁故債で借りるというのが1つのスキルである。公的資金は30年、2.1%で借りられるが、縁故債は10年で刻んで起債していくしかないのかなという考えである。
議長	続いて、案件4 戸田市上下水道ビジョン等策定業務の進捗について、事務局より説明願いたい。
事務局	【戸田市上下水道ビジョン等策定業務の進捗についての説明】
議長	説明について、何か意見・質問等があったら、お願ひしたい。 これは令和8年から17年の10年間ということだが、概要版をパブリックコメントで実施するのか。
事務局	はい。上下合体の本編については、百頁以上になるため、こちらは委員に配付して見ていただく形になり、市民には、ホームページ等で公表していく。委員には11月頃に詳細版（素案）を事前に配付し、その後に年内に審議会を開催し、パブリックコメント実施前に意見をいただきたい。
議長	重要なのは施策の体系と具体的な実施スケジュールであるが、どういった事業があり、どういったところに重点的に支出するかを決めていかなければ

	ならない。今年度、料金改定を行ったので、市民への説明責任を今後しっかりと果たしていかなければならない。財政計画と連動して委員には個別案件について審議いただくことが重要であると感じた。そういう方法で進めていきたい。
事務局	今回のビジョンはあくまでも 10 年スパンであるが、戸田市の場合、浄水場の更新費用に莫大な経費と時間を要するため、今後の見通しについては、料金改定後の積算でそれらも含めシミュレートした上で、素案を示したいと考えている。
議長	浄水場は東部と西部があるが、東部の方を先に実施していかなければならぬのか。
事務局	東部浄水場を先行して実施し、その後に西部浄水場となる。
委員	資料 4 の項目 6 「財政収支の見通しと施策」の 2 行目「損益の悪化や資金不足への懸念もあります」とあるが、「懸念」というのは、何か解決策があるから基本大丈夫であるが少し不安というニュアンスであると思う。後段に「経費をまかなえる状態を維持することが重要」との繋がりを考えると、ここで「懸念」という言葉を使うことは、誤解を招くのではないかと思う。
議長	なかなか 10 年先の計画というのは難しいものである。「損益の悪化や資金不足の懸念もあります」についても、事務局は相当悩んで考えた文言だと思う。次回の審議会で、皆さんでいい知恵を出して考えていくということしたい。
委員	資料 3 の 16 頁に昨年度更新した管路延長が 870m とあるが、このペースで進むと更新が終わらない間に全ての管路が耐用年数を超てしまう事態に陥る。全ての水道管が老朽化していると考えると恐ろしい事態である。老朽設備や老朽管の更新が重要課題となっていることを市民は理解していないと思うので、今後、漏水や管路破裂の可能性を含め十分に広報紙等で周知活動が必要であると思う。

議長	委員の指摘は大変重要で 100 年経っても更新が終了せず、管路の耐用年数が到達してしまう状況である。八潮市での事故もあり、市民は安心安全に対して非常に心配な点もあると思うので今後、関連情報の提供をお願いしたい。
委員	管路が老朽化して深刻な問題であるというネガティブな情報に対し経営効率を図っているというポジティブな情報の両輪を示して、市民に理解を求めていくことが必要だと思うので、ホームページや広報等での周知が大切になってくる。
議長	委員の指摘のとおりで、水安全部としても、全力で対処するというところを前面に示して活動していく必要がある。
委員	みずのめぐみの 5 頁に老朽化した配水管が掲載されていて、それは、昭和 49 年の管とあるが、八潮の事故では、どれくらい前に布設されたものなのか。同様の事故は起これえるものなのか。
事務局	八潮の事故では、昭和 58 年に布設し、42 年経過していたようだ。経過年数的に同様の状況のものが存在する可能性はある。
委員	管路の耐震化を進めている中で上水管より下水管の方が損傷は激しいと思うがどうか。
事務局	確かに下水管は硫化水素や有毒ガスの影響で老朽化しやすいが、下水管は管内を確認することが可能なため、管内調査で老朽箇所を発見して改修することができる。逆に水道管は飲み水で満たされているため、管内を確認することができない。そのため、下水管についてはきちんと調査を行い、危険箇所を改修していくことで対応可能である。
委員	下水管は新築よりも改築の方が難しい。きちんとチェックを行い補修していけば持続可能となる。そのような対応をしていないと耐用年数が短くな

	る。戸田市で老朽化した管を実際にどのようにチェックしていく方針なのか。
事務局	色々な自治体でドローンを使用した下水管の点検や新しい技術を使って有効的な点検方法で調査を実施している。人が下水管に潜るのはリスクが高いので、いかに人が潜らず、ドローンを使って安全・確実に点検するかが今後求められてくる。
議長	戸田市の下水管は合流式と分流式の割合はどうか。
事務局	約 4 : 3 で、合流式が 4 である。
議長	合流式は雨が降ると一気に流れ、水量が急激に増えるので、管理が難しい。また、下水道の管渠はオーバーフローや逆流などの対策をきちんと行わないと、衛生上の問題も生じてくるため、今後市民に分かり易く説明していく必要がある。
	では、本日の議事は以上となるため、進行を事務局に返す。
	【閉会】